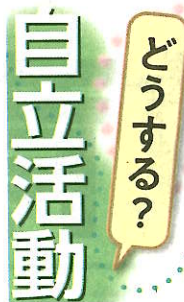


特別支援教育

ゲーム通じ「心がつながる」体験

7月8日の知的障害個別支援学級では「『手先の巧緻性や持続性を高める活動』を指導するクラス」と「『心理的な安定』『人間関係の構築』『コミュニケーション』など多様な指導課題を設定したクラス」を設け自立活動を実施した。横浜市立桜岡小学校の個別支援学級(特別支援学級)。

定年退職後も再任用され、非常勤講師として特別支援教育に携わり続けている大ベテランである本多茂子・非常勤講師が指導を担当した「『心理的な安定』



(34)

横浜市立桜岡小学校 個別支援学級の取り組み①

「人間関係の構築」「コミュニケーション」など多様な指導課題を設定したクラスでは、友達と一緒に取り組むことの楽しさを感じた子どもたち。最初はとハートがつながるゲームに挑戦した。

床に設けた10本の棒に向かって輪を一人5回ずつ投げ、入った数が多いチームが勝ちになる輪投げゲームを実施した。最初は、「1人が卓球のボール(ピンポン玉)を机の上で転がし、もう1人がそれを紙コップでキヤッチする。それを相互に繰り返す」というハートキヤッチゲームを行った。

本多講師は「心がつながる」ことの大切さを改めて強調し、友達と声を掛け合うことや友達を信じるのが大切であること確認した。

輪投げゲームで成功した時に多講師が「心がつながったかな」とが何よりも重要」と話した。

「『ペアの人ともっと仲良くなれたかな?』と声を掛けると、子どもたちは『友達か応援してくれただけでゲームを頑張れた』と「ハートがつながって、もっと友達になれた」という感想を話した。そして「ゲームは楽しいよ!」勝ったり負けたりするよ!」泣いたり、怒ったり、いじけたりしないよ!という「みんなの合言葉」(活動の目標)を達成できたことを確認。「みんなスーパヒーロー」(学級目標)になれたね」と子どもたちをたたえ、自己肯定感を高められるようにした。

寄り添ったり、見守ったりしながら、一人一人に合わせた対応を続けた本多講師。「全体でどのような活動を取り入れて指導することが一人一人の課題を解決できることになるのかを常に考えることが大切。そのためにも、あらゆる場面を通して子どもたちの姿を見取っていく」と話した。

「巨大野球盤」で誰もが主役に

障害のある子どももスポーツが苦手な子どもも野球を楽しみ、応援される喜びと応援する大切さを体験して。ポードゲームの「野球盤」を約10倍の大きさにし、バットの先に付けたひもを引くだけで球を打てるよう、民間企業が開発した「ユニバーサル野球」の授業が少しずつ広がっている。先月には東京都板橋区立緑小学校で実施。5年生が1人ずつ打席に立ち、互いに応援し合いながら試合に臨んだ。

企業開発、授業への利用増

ユニバーサル野球は、強化ボールや木でできた野球盤で戦う野球競技。野球場は本塁から中堅までが約6尺、両翼が約5尺で、一般的な球場の20分の1、野球盤の10倍の大きさだ。

プレーヤーが行うのは打撃のみ。バッターボックスの位置には、ひもを引いてピンを抜くと回転する木製バットがある。ホームベースの位置には回転する円盤があり、その上にボールがある。打者はタイミングを合わせてバットのひもを引く、得点を狙う。

野手がいる位置の穴にボールが入るとアウトとなる。外野フェンス際にもアウト、ヒット(1点)、2塁打(2点)、3塁打(3点)のコーナーがあり、バックスクリーンまで届けば、プレーヤーに合わせて、

障害ある子どもプレー可能 打撃はひもを引くだけ

ホームラン(4点になる。プレーヤーに合わせて、

バットに差し込むピンの穴の深さが変えられる。ターニングボールが1周する速さも約2〜15秒の間で調節できる。バットを振らず、ボールを握らなくても、指や腕が1移動けばプレーできる。

開発したのは、鉄道車両の整備などを手掛ける堀江車輜電装(東京・千代田区)で障害者支援事業を担当する中村哲郎さん。きっかけは平成29年の春、東京都内の特別支援学校小学部に通う野球好きの少年との出会いだった。

障害のある人向けのスポーツイベントにボランティアとして参加していた中村さんは、車椅子に乗る少年が「僕も野球がしたい」と小さな声で話していたのを聞いた。彼が野球をするにはどうすればよいか、必死に考えた。

中村さん自身は元高校球

児で、甲子園常連校の北海道(札幌市)出身。野球している埼玉真横瀬町の協力の面白さについて、「一番力を得たことだから、『よこはまユニバーサル野球』と名前をつけて打つこと。一人一人が活躍する場面があり、一人一人を応援する場面ができるのが魅力だと思」と語る。

試行錯誤しながらバットを試作し、ターニングボールで回転するボールを打つ仕組みを考案。平成31年3月に球場が完成し、翌年7月に特許を取得した。企業

東京・板橋区立緑小の児童

応援する・される喜び事

7月8日には東京都板橋区立緑小学校の体育館で、5年生の2学級を対象にした授業があった。試合は1人ずつの4チームに分かれて行った。

授業には、東京ヤクルトスワローズの元選手で現在は球団職員の三輪正義さんも参加。三輪さんは球団が都内の小学校で行っている「投げ方教室」で同校を訪れた際、市之瀬輝明校長にユニバーサル野球を紹介したという。

「1番、とにかく元気な席に入る児童一人一人の良さや好きなものを紹介する。試合を見守る児童たちも、赤や青のメガホンをたいて盛り上げた。



東京都板橋区立緑小学校の体育館で行われた試合の様子(上)、東京ヤクルトスワローズの三輪正義さんが、打席に立つ児童にアドバイスした(下)



2チームずつ行う試合は、いすれも接戦に。バッターボックスに入る児童は全員が真剣な表情だ。見事、ホームランを決めた児童は、

UDトーク①

近年の情報技術の向上に伴い、聴者の音声認識して文字に変換し、画面に表示させるアプリが開発されています。今回は「UDトーク」を紹介いたします。

UDトークは操作が容易で、内蔵されているマイクに話し掛けるだけで、リアルタイムで音声テキストに変換されます。さまざまなデバイスやツールと連携して誤変換などを修正できる他、利用者に応じての漢字表示も該当学年単位で細かく指定できます。

こうした高い機能や使い勝手の良さから、学校現場では難聴児への情報保障に活用する試みがあります。なお、個人で使う分には無料ですが、教育現場で使用する場合は教育機関用の法人向けプランもしくはアプリ導入プログラムの契約が必要です。

難聴児の学習活動への支援として運用する場合、基本的

アプリで広げる 子どもの学び

